

万円前後の個人設備投資をおこなっている。水稲ケースがもっとも純益の割合が高い。水稲プラス蔬菜ケースは、販売額 200 万円以上にのぼる場合もあるが、省力化の上でもっとも困難である。水稲プラス畜産ケースは、省力化の面ではもっともすぐれているが、生産額のものびがよわい。家計面は、いずれの消費部門も上昇傾向にあるが、食が 2 倍、衣、住、その他 5～10 が倍以上に達している。農業経営ならびに生活両面において、健全な生活基盤が形成されつつあると考えてよいであろう。

D-16 農家生活の変貌に関する研究（第 2 報）

—北陸の米作地帯—

青葉学園短大 鹿股寿美江

1. 北陸の米作地帯における専業農家が、昭和30年以降の社会的経済的変動に対して、対応している姿勢を生活実態分析の上からとらえ、生活の動向をあきらかにすることにあら。

2. 石川県石川郡松任町地区を対象とした。選定理由一松任町地区は、石川平野の大半をしめ、自然的条件にめぐまれ、将来も日本有数の農業圏地帯として残りうる可能性があるであろうという仮定のもとに、当地域を選定した。ケース別に、過去10年間の農業投資の状態、および農業投資と農業生産額との関係、農業労働力投入の状態、家計面以上の3点から農家生活の推移をあきらかにし、農家の生活基盤の健全性を検討した。

3. 耕地が約前後の農家で、自立農家としての基盤を形成しつつある農家においては、過去約10年間に、100